

決勝戦の結果と試合内容

ピン級 荒竹 一真(鹿児島県/鹿屋工業) ○ 3 (WP) 2 ● 尾崎 優日(大阪府/興国)

1R-オープニングは尾崎の攻撃からスタートした。荒竹もワンツーからフックで応戦するも、尾崎はチャレンジャー的に果敢に攻める。2R-最軽量級とは思えぬ白熱した激しい打ち合いで一進一退。3R-お互いに譲ることのない勝利への執念はパンチの応酬で終始する。僅差の判定は3-2のスピリットで荒竹が勝利、4冠目を獲得した。負けはしたものの尾崎にも称賛の拍手を送りたい。

ライトフライ級 高見 亨介(東京都/目黒日大通) ○ 4 (WP) 1 ● 吉良 大弥(奈良県/王寺工業)

1R-ジャブを多用しながらプレッシャーをかける吉良に対し、高見はステップでかわしながら上下にパンチを打ち分ける。2R-動きこそ少ないが確実にパンチを当ててくる吉良に対して、高見も打ち終わりにパンチをヒットさせる。3R-激しくぶつかり合う両者の攻撃は、高見のボディと吉良のクロスが目立った。将来のアマチュアボクシング界を担う両名の対戦、会場は固唾を呑んで判定を待つ。結果は高見が4-1のスコアで勝利した。

フライ級 平塚 駿之介(栃木県/作新学院) ○ 4 (WP) 1 ● 中山 慧大(福岡県/東福岡)

1R-パワフルに攻める平塚に対し、中山は左ジャブを多用してリズムを取る。平塚は打ち合いに持っていきたいが、中山も簡単には許さない。2R-打ち合いの中から中山の左フックがヒットする。激しい攻防ではあるが、平塚には余力があるように感じられる。3R-平塚の渾身の右ストレートがヒットするが、中山も負けじと打ち返す。互いに勝利への執念が感じられる戦いは決着がつかず、判定へ。平塚が4-1のスコアで勝利した。

バンタム級 松本 敬人(愛媛県/松山工業) ○ 4 (WP) 1 ● 山崎 裕生(大阪府/興国)

1R-外から攻める山崎に、脇を絞り内側から攻める松本。松本は右を上下に打ち分けシンプルに攻める。2R-松本の攻めは単調ではあるものの確実にポイントに繋がる。山崎も反撃に転じようと試みるも攻めあぐねる。3R-山崎は積極的に前に出てくるが、松本は動いて自分のリズムを刻む。山崎が右をヒットさせるも、逆に松本の右カウンターが入る。判定は4-1で松本の勝利、選抜に続く2冠を達成した。

ライト級 堤 麗斗(千葉県/習志野) ○ 4 (WP) 0 ● 藤原 仁太(大阪府/興国)

1R-堤は落ち着いていて王者の風格を感じさせる。対する藤原は堤の攻撃を防ごうとして反則につながる行為となり、レフリーから注意を受ける。2R-堤は一瞬の隙をつき効果的にパンチをヒットさせる。藤原もよい攻撃を見せるがホールディングで減点となる。堤は終始自分のボクシングに徹する。3R-藤原は劣勢を挽回すべく前に出る。対する堤も下がることなく打ち合いに応じた。結果、堤が判定で勝利し4冠目を獲得した。

ライトウェルター級 脇田 夢叶(宮崎県/日章学園) ● 1 (WP) 4 ○ 高橋 麗斗(千葉県/沼南)

1R-互いに動きながらのリング中央でのペース争いは一進一退の攻防戦となった。2R-前半は脇田がポイントを奪うも、後半はサウスポー-高橋の左や返し右がヒットする。3R-ゴング同時に高橋が攻め、脇田も地元の声援を一身に受け果敢に打ち合う。頭をつけての打ち合いは迫力満点、高橋の力強いパンチがやや効果的であった。判定は4-1で高橋が勝利し総体初優勝となった。

ウェルター級 山本 諒真(熊本県/東海大熊本星翔) ○ 5 (WP) 0 ● 梁 章太(大阪府/大阪朝鮮)

1R-サウスポーの梁は足を使って動くが、山本は固い構えで虎視眈々と狙い、要所での攻撃は上回った。2R-梁はステップから伸びのあるリードを使い左をヒットさせる。山本も右から懐に入ろうとするがかかわされる。3R-梁はステップしてチャンスをうかがい、山本は飛び込んで攻撃を仕掛ける。山本の攻撃に対する梁の防御は反則とされレフリーから注意を受ける。判定で絶えず前に出た山本が勝利した。1年生の山本は初出場初優勝である。

ミドル級 仲野 玲(奈良県/清和清陵) ○ 3 (WP) 2 ● 松野 晃汰(宮崎県/日章学園)

1R-仲野は下がることなく攻撃を仕掛け、松野も負けじと応じ、重量級らしい迫力のある戦いとなる。2R-仲野が前に出てプレッシャーをかけ重いパンチで松野を攻める。しかし、松野も地元の声援をバックに果敢に右から左フックを当てる。3R-重いパンチの激しい応酬に、観客席からも大歓声があがる。今インターハイ最後にふさわしい好ファイトは3-2で仲野を指示した。仲野は選抜に続く2冠達成となった。